

## なからぎ

231号

2020年10月

## リアル公共空間としての図書館

副学長 川 勝 健 志

文献検索データベースや電子ジャーナルの普及により、研究に不可欠な先行研究のサーベイの効率が飛躍的に高まるようになってすでに久しい。かくいう私も院生時代からその恩恵を受けてきた一人であり、とりわけ好んで利用しているのが、Web of Scienceである。この検索データベースを利用して研究テーマに関するキーワードを入力すれば、主要英文誌に掲載されている膨大な論文の中から必要な論文の所在が瞬時にリストアップされる。また、それらが電子ジャーナルと紐づけられていれば、図書館に行かずとも研究室や自宅でフルペーパーを入手することができる。和文誌については、依然として電子化に遅れていると言わざるを得ないが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響によって、今後ますますそうした動きは書籍も含めて加速化するであろう。

では図書館にはいずれ近い将来、誰も訪れなくなるのであろうか。私個人の答えは、「否」である。私は無類の読書好きというほどではないが、図書館という公共空間が好きだ。図書館は、バーチャルでは味わえない、人生をより豊かにしてくれる本や言葉、人との偶然の出会いに満ち溢れているからである。図書館には目当ての文献を求めて訪れることが多いが、当然ながらその文献がある本棚やその周辺、さらにはそこにたどり着くまでも数多くの文献が目飛び込んでくるので、思わず物色したくなる。その結果、時には目当ての文献をそっちのけで他の文献に手を伸ばしてしまうことも少なくない。ましてや書庫などに入ってしまうと、人気のない異空間に足を踏み入れた興奮とも相まって、宝の山に囲まれた子どものように読み耽ってしまい、閉館時間になっても気づかずに閉じ込められそうになったことも一度や二度ではない。

私は本学図書館の文献複写サービスをこれまでもかなり利用させて頂いているのだが、その際に図書館職員の方々と交わす何気ない会話も私のささやかな楽しみの1つである。在外研究でお世話になった、アメリカのポートランド州立大学の図書館では、偶然知り合った同大学の先生に声をかけられ、互いの研究について議論したことがきっかけで現在も交流が続いている。

新型コロナウイルス感染症は、確かにオンラインの有用性を教えてくれたが、同時にその限界とface to faceの価値をあらためて教えてくれたように思われる。どれだけオンライン授業が普及・定着したとしても、それで大学の使命がすべて果たせるわけではないのと同様に、リアル公共空間としての図書館には前述のような固有の価値と魅力があることは論を待たない。私自身は今年4月から管理職を仰せつかったこともあり、図書館をゆるりと楽しむ時間を見つけることは容易ではない。それでももし書庫に籠る私を見かけるようなことがあるとすれば、それはおそらく至福の時というよりもむしろ現実逃避中であろう(笑)。その時は、そっとしておいて頂けるとありがたい。

## 「変わったもの」

生命環境科学研究科 久保中央

本学赴任前には遺伝子の進化に関する基礎研究を行っていたのだが、赴任後は京都府の農業試験場に併任している関係から京都の特産物に関する研究も行うようになった。最近ではむしろこちらの仕事の方が多くなった気がする。多くの場合は、農業試験場の職員から相談を受けて始めたことである。聖護院ダイコンに始まり、鹿ヶ谷<sup>しがたに</sup>カボチャや花菜<sup>はなな</sup>、金時ニンジン、宇治茶、果ては海藻のアカモクと、気付けば非常にたくさんの種類を対象にしている。私は京都以外の出身ということもあって京都の農産物に関する知識は元々少なかったため、文献を調べて勉強することになった。古い文献の中には突拍子もない、根拠が薄かったり無かったりする珍説もあるが、逆に「技術も情報も少なかった時代にこんなことがよく見抜けたなあ」と驚かされることもある。結果わかったのは、京都の特産物は、他地方から持ち込まれたものが上手く風土に合うように改良され、それらを大事に受け継いできたのではないであろうか。

お茶については、元々、喫茶は中国由来の文化であるが、現在では茶道に代表される日本文化の代表格に発展している。中国と日本の茶葉を比べると、中国由来の葉は総じて大きいが日本のものは小さい。これは原産地である温暖な中国南西部から、それよりも寒冷な日本に伝来後、茶樹が寒さに適応した結

果であると考えられている（恒温動物では寒い地域ほど体が大きくなるという「ベルクマンの法則」が知られているが、お茶の場合は例えば降雪で枝葉が折れにくくするためであろう）。実は、日本は茶樹の生育の北限にある。世界最北として、北海道 積丹半島の古平町に茶樹がある。商業栽培の北限は、商業栽培の解釈によって「北限」を謳う地域がいくつかあるが、秋田県から新潟県、茨城県辺りである。寒さだけではなく、宇治茶に代表される抹茶や玉露を作るためには、茶樹を遮光しても新芽がよく成長する茶樹が選ばれてきた。この作業は、かつて茶樹を霜害から防ぐ「覆い」として行っていたものであるが、遮光によって旨味が増すことがわかり、それ以降は積極的に遮光をするようになった。

京野菜もその多くが他地方から持ち込まれた後、京都の地に根付き徐々に改良されていったものである。典型的な例が「鹿ヶ谷カボチャ」と「聖護院ダイコン」であろう。画像のように鹿ヶ谷カボチャはヒョウタン型、聖護院ダイコンは丸型をしている。鹿ヶ谷カボチャは、江戸時代に「津軽から持ち込まれた（日本画で描かれる、縦筋の入った平型の）カボチャを育てているうちにヒョウタン型になった」と言われている。大きな形の変化であるが、カボチャの中には洋ナシ型や長

細い型の品種もあるので、あり得なくはない。また、平型をした福島在来のカボチャから「ラグビーボールのような形をしたカボチャがなった」という文献もある。同じウリ科にヒョウタンがあるので、ウリ科の植物の果実には元々そのような果型になる性質が隠されているのかも知れない。聖護院ダイコンも、やはり江戸時代に「尾張から持ち込まれた(長い)ダイコンを育てているうちに徐々に丸くなった」と伝承されている。果たして本当だろうかという疑問を感じるが、実は桜島ダイコンにも似たような伝承がある。桜島ダイコンは鹿児島特産の丸く非常に大きなダイコンであるが、江戸時代の絵図には「櫻島」と銘打った長いダイコンが描かれている。それにしてもここまで見事に丸くなるのは本当に不思議である。

先日、研究室の学生から「うちの研究室では変わった形の植物ばかりを対象にしている」と指摘され、なるほどそれもそうだなと思った。思い返せば冒頭で述べた遺伝子の進化に関する研究でも、進化の過程で変わった構造をした遺伝子を探している。元々、珍品好きなのかも知れないが、以前から私は科学研究には2つのアプローチがあると思って

いる。一方は、誰もが認めるルール(例えばニュートンの万有引力といった数学や物理学の定理など)を見つけることである。もう一方は、“変わった現象や例外”を見つけることである。生物学では、ほ乳類なのに卵を産むカモノハシや植物なのに葉も茎もないラフレシアなど、このような例外がよく見られる。生物は過酷な生存競争に打ち勝つために基本的に強さや効率性を求めているが、時にはそれとは違う方法を探るのも一つの本質なのかも知れない。

最後に、変わった京野菜の極みとして「郡大根」を挙げる。ぐねぐねと蛇行した根が特徴のダイコンで、堀上げるのがさぞかし大変だったと思う。現代のダイコンの主流が収穫や流通、調理の都合から真つすぐ均一な太さであるのとは対照的で、市場性の観点では「改良と言えるのか?」というレベルであるが、昭和初期に絶滅してしまった。

良きにしろ悪きにしろ一度失われたものは簡単には復活しない。京都では今後も有形・無形に関わらず色々なものを受け入れつつ大事に継承して行って欲しいと思う。

(スペースは原文に忠実に入れています)



鹿ヶ谷カボチャ(左)と聖護院ダイコン(右)  
囲みは完熟前の果実

## 日本・中国文学科所蔵の「清水文庫」について

文学部日本・中国文学科教授 小 松 謙

清水文庫は、京都大学名誉教授清水茂先生（1925～2008）の旧蔵書です。

清水先生は長期にわたって京都大学文学部中国語学・中国文学専攻で教育・研究に当たってこられた方です。非常に幅広い学識をお持ちで、韓愈の散文全訳など、多くの業績を残されました。清水先生は豊富な蔵書をお持ちで、2003年にその蔵書をどこかにまとめて寄贈したいと思いつかれて、受業生だった小松に府立大での受け入れは可能か問い合わせをされました。ちょうど新たに大学院生研究室が開設されて、たまたま受け入れるスペースがあったことが幸いして、お受けすることが可能になり、当時の教員が総出で、レンタカーのトラックを先生のお宅に乗り付けていただいていたのがこの文庫です。

文庫のうち最も重要なのは中国で古い時代に刊行された線装本（糸綴じの本）です。全部で130部あまり、その多くは清代の刊本です。清水先生が訳注を作成する際に利用された韓愈や王安石の詩文集など、唐宋の詩文集などもかなり充実していますが、特筆すべきは清代の詩文集が数多く含まれることでしょう。特に

屈大均の『道援堂詩集』は、作者が清への抵抗運動を行ったため、清の乾隆帝に憎まれて焼却処分された本の数少ない生き残りになります。また『詩余広選』という詞の選集は、一部が欠けてはいますが、明代末期の刊本で、非常に貴重なものです。

日本で刊行されたものは30部ほどで、大部分が江戸時代に刊行されたものです。中国の詩文集もかなりあって貴重なものが含まれていますが、特に重要なのは江戸時代前期の学者伊藤仁斎・東涯父子が彼らの私塾古義堂で刊行した書物が数多くあることでしょう。

線装本以外にも、日本や中国の書物が1000冊以上あって、特に中国の本については、今では手に入らない貴重な本が多く含まれています。

清水文庫は現在京都学・歴彩館4階の院生研究室（国中）に置かれています。どなたでもご利用いただけますが、管理の関係上、事前に文学部事務、または日本・中国文学科の教員までお問い合わせください。貸し出しは原則として行っておりませんので、その場での閲覧になります。皆様のご利用を歓迎いたします。

## 在宅でもできる図書館徹底利用ガイド (Part.2) ～電子ジャーナル・データベース編～

前号では、電子ブックを紹介しましたが、今回は、パソコンやタブレット、スマートフォンで閲覧可能な電子ジャーナルやデータベースについてです。本学が契約する電子ジャーナルや電子データベースは、本学の学生や教職員に限って見られる仕組みです。**一部のデータベースは、学外でも府大の学生・教員であることを認証\*すれば、在宅や、通学電車の中、バイトの合間など、好きなタイミングでお手持ちのデバイスを使ってアクセスできます。**入学時に取得した全学認証IDとパスワードを用意し、さあ、アクセス！

学習や研究の幅が格段に広がることでしょう。

※代表的な方式の1つが、学術認証フェデレーション（通称：学認）。

学術eリソースについて、利用する大学と提供する機関・出版社から構成された連合体で、構成員は運用基準に合意し、相互に認証連携を実現。

〈学外からのアクセス例〉

● <sup>エブスコ</sup>EBSCOhost Academic Search Premier【認証方式：学認】

<sup>エブスコ</sup>EBSCO社が提供する人文・社会・自然科学、医療、デザイン、コンピュータ等、幅広い分野の学術雑誌を収録したデータベース。約4,600誌のフルテキストを収録。

○同時アクセス数：無制限。

○学外環境でも利用可、全学認証IDとパスワードを用意のこと。

○アクセス先 <http://search.ebscohost.com/>

学外からの操作方法

- ① 「Institutional Login」をクリック
- ② 「To login using your institution's login credentials, select a region or group」の下のプルダウンメニューから「Japanese Research and Education – Gakunin」を選択し、「京都府立大学」をクリック
- ③ ユーザー名（全学認証ID）とパスワードを入力し、ログイン

● <sup>シュプリンガーリンク</sup>SpringerLink【認証方式：学認】

SpringerNature社発行（Kluwer Academic Publishers含む）の電子ジャーナル約1,900タイトルの2000年発行分から最新号まで検索・閲覧可能。

○同時アクセス数：無制限。

○学外環境でも利用可、全学認証IDとパスワードを用意のこと。

○アクセス方法 <https://link.springer.com/>

学外からの操作方法

- ① 画面右上の「Sign up/Log in」をクリック
- ② 「Log in via Shibboleth or Athens」をクリック
- ③ 「Or, find your institution (via Shibboleth)」の下のプルダウンメニューから「Kyoto Prefectural University」を選択し「Log in via Shibboleth」をクリック
- ④ ユーザー名（全学認証ID）とパスワードを入力し、ログイン

→ フリーのDBなど、利用可能な一覧を見たい方は、[図書館のホームページへ!](#)

## 図書館からのお知らせ

### ☆ 本学関係者向け利用案内 ～感染症拡大予防のため開館時間など～

**利用対象者** 本学関係者

**利用時間** 9:00～17:00

**貸出冊数** 6冊。4回生・大学院生は、特別貸出(6冊)を含め最大12冊。(1ヶ月)

**開館日** 平日及び土日(但し、祝日、毎月第二水曜日、12/28～1/4を除く)

**その他** 研究個室、グループ研究室、視聴覚コーナーは利用休止中

注) 臨時休館など変更する場合がありますので、最新の情報は、図書館ホームページでご確認ください。

### ☆☆☆ レファレンスを利用していますか? ☆☆☆

レファレンスは、図書館が行う利用者サービスの一つで、必要とする文献や参考図書についての問合せに応じたり、データベースの使い方などを教えたりするものです。

詳しくは、カウンターまでお問い合わせください。お電話でもメールでも受け付けています。電話：075-703-5130 メール：counter@kpu.ac.jp

(府民の皆様へ 御理解と御協力をお願い)

附属図書館では、京都府立大学附属図書館規程の規定に基づき、本学の教育・研究に支障のない範囲で府民の皆様へ公開してまいりましたが、感染症拡大予防のためのガイドラインを踏まえ、現在、利用者に関する設置目的に基づき、本学の学生及び教職員に限定した形で開館しております。学生が安心して学業に専念できる学修環境や、教職員が安心して教育研究活動・学生支援活動に従事できる環境が整い、府民の皆様へ御利用いただける段階になりましたら、改めて、HPによりお知らせする予定です。府民の皆様には、御不便をおかけしておりますが、御理解・御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(令和2年10月1日現在)

### 😊 1年生のための図書館基礎知識 OPAC 編



新入生 : 「尾パック」ってなんですか？

Mr. 司書 : しっぽのパックではありませんよ、変換しないで！ 正しくは、「OPAC」。蔵書検索システム (Online Public Access Catalog) のことで、在宅でも利用できます。

Mr. 司書 : とところでオパックさんには癖があるのを知っていますか？

新入生 : いきなり擬人化ですか、で、どんな？

Mr. 司書 : 実は知らないと怖～い癖です。気まじめなオパックさんは、**きちんと一致しなければ、検索しても「一致する資料はありません」とお返事されます。**

新入生 : 探し方次第では、検索結果が中途半端に？

Mr. 司書 : **単語が1つでも異なっていたり、助詞が抜けて文字が詰められていたりすると、ヒットしません！ 助詞がわからなければ、入れずにスペースに置き換えてみてください。**

試しに例えば、『葡萄之研究』(大井上康著 日本巨峰会出版)のタイトルを『葡萄の研究』や『葡萄 研究』に入れ替えて検索してみてください。もちろん『 』も外して。

新入生 : 検索をするには、どこへアクセスしたらいいのですか？

Mr. 司書 : [図書館 HP のトップ画面](#)の左上に「合同蔵書検索 OPAC」のタブがあり、3館合同蔵書検索システム画面から検索できます。画面右上のヘルプに検索方法など役立つ情報が載っています。それでは、オパックさんと仲良くなってくださいね。

---

なからぎ 京都府立大学図書館報 231号 2020年10月発行 編集発行人：小林啓治  
発行所：京都府立大学附属図書館 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 TEL:075(703)5128～5131  
FAX 075(703)5192 ホームページ <https://www2.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html>

---